

# 会報 新安土日記第5号

NPO 法人安土城再建を夢見る会  
平成 31 年 1 月 27 日

## 京都新聞(元旦)に三日月知事と当会尾崎理事長の記事が掲載されました！

### 高まるブーム、安土城も再建？ 復元向け滋賀県が調査

戦国時代に織田信長が築き、豪華華麗な天主を誇ったとされる安土城(滋賀県近江八幡市)の復元に向け、滋賀県が新年度から本格的な検討に乗り出す。全容の分かる資料がない「幻の城」で、海外の資料も調査してきたが実を結んでこなかった。近年の「城ブーム」などを追い風に民間団体の再建熱も高まり、県は調査団の再派遣も視野に、名城復活への道を探る。

安土城は築城から3年後の1582(天正10)年、天主が焼失した。長年復元を望む声がある一方、城跡は国指定特別史跡のため、文化庁の許可を得るには建造当時の設計図や絵図などをそろえる必要があった。

そのため県と旧安土町は1984年、信長が天正遣欧使節を通じてローマ法王に献上したとされる屏風(くふうぶ)絵「安土城之図」を探す調査団をバチカンに派遣。その後も調査は続けられたが、発見には至っていない。

一方で全国的に城巡り観光が注目され、信長を討った武将明智光秀が主人公のNHK大河ドラマの2020年放映が決定。国も文化財の保護から活用へかじを切る中、県は経済効果が大きいとみて、復元の糸口を探ることにした。

ただ、仮に屏風絵が見つかったとしても、耐震性の観点などから木造での復元は難しいとの見方が優勢だ。そのため県庁内には、城跡に近く、かつ史跡指定外の場所に、信頼性が高いとされる復元図面で再建するのが最も現実的とする意見もある。いずれにせよ巨額を要するため、民間と連携して可能性を探る方針だ。

昨年、県に再建を提言した滋賀経済産業協会はコンクリート造りの場合、工費は300億円程度と試算。商業施設の併設も構想し「長期的に考えれば費用面はクリアできる」とする。

NPO法人「安土城再建を夢見る会」(近江八幡市)は今年からシンポジウムなどを通じ、全国的に再建の機運を高める方針という。尾崎信一郎理事長は「安土城は普通の城ではなく、天下統一を目指した信長の思想が込められている。観光資源としてだけでなく日本の宝になる」と再建の意義を訴えている。

新年早々朗報です。「『麒麟(きりん)がくる』で戦国時代や信長にスポットが当たる。安土城を広める機会としたい」。三日月大造知事は4日記者会見で、戦国武将、明智光秀を主人公とする来年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」を引き合いに復元を検討する意図を明かした。⇒毎日新聞

昨年10月14日に「安土城再建から日本を元気にしよう！」をテーマに当会シンポジウムを開催し、三日月知事が「夢のある安土城復元プロジェクトを本格的に進めることにした。その為に、当NPOや地元、国や市、世界イエズス会など皆様の力と知恵を集めてほしい！」と復元への熱い想いを語られました。滋賀県教育委員会の仲川主幹からは「法律の改定により、文化財の管理団体が市となるので近江八幡市が主体となってやってください。協力する団体(NPO含む)は市が指定でき、その団体には国から補助金もでる。」とのことでした。これを受けて近江八幡小西理市長は文化財担当と具体化に向けて、すぐに動き出しています。当会は今年度、東京、名古屋、近江八幡での出版記念シンポジウムやココしがでのPR活動を計画し市や県との連携も強化していきます。この機会に入会及び寄付などいただければ、当会活動の大きな弾みになります。

**是非、皆様の支援、応援、励ましなど宜しく願いいたします。みなさんと共に安土山図屏風から欧州へ伝わった「信長の楽園(平安楽土)」の世界を再びこの地で再現していきましょう！**



建築史家の研究に基づく安土城の模型。建造時の全容が分かる資料は見つかっていない(滋賀県近江八幡市安土町小中・安土城跡資料館)